

文化生活部

kurashi@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3020 FAX:096-361-3290



MEDICAL-COLUMN

⑭ 駒木 智さん

子どもの生活制限し過ぎずに

昨年から当クリニックの外
来診療の患者さんはとても少
なくなりました。病気の子ども
もさんがいない、ということ
はとても良い事です。ただそ
の中でも小中学生が時折来院
されるのですが、最近ちょっ
と心配です。とにかく目がど
んよりして覇気がない児童や
生徒が多くなってきました。
とこころみなさんは新型コロナ

コロナウイルスではなく季節型
コロナのことはご存じですか
？ 今までに普通の感冒を引
き起こすコロナは4種類知ら
れていました。生まれてきた
赤ちゃんにとっては新型コロ
ナを含め、5種類のコロナは
全て新しいコロナウイルスに
なります。つまり赤ちゃんに
とっては何でも初物、特に新
型コロナが問題になるわけ
はなにもそのなです。子ども
には新型コロナに過剰に反応
しないで、普通の感冒として
排除する防御機構が備わって
いると思われます。「子ども
って感染症に弱いはずなのに
ー」と考えるのが普通ですが、

ある種の感染症ではよくある
こと。例えば3歳以下の溶連
菌感染症やマイコプラズマ感
染症などは臨床小児科医なら
一般的に悪化しないことを知
っています。
ヒトの免疫には2種類あつ
て、しかも順番があります。
ウイルスが体内に入ると、ヒ
トは最初に自然免疫(食細胞
でウイルスをそのまま文字通
り食べて破壊)で排除しよう
とします。その後、獲得免疫
(抗体や細胞性免疫でウイル
スを破壊)が働きます。獲得
免疫は強力ですが、たまたま自
分の体にまで害を及ぼしま
す。子どもは獲得免疫がそれ

ほど発達していないので、大
人とは逆に自然免疫が優先的
に働き、何事もなく新型コロナ
ナを排除できるのでしょう。
新型コロナは風邪のウイル
スなので基本的に何度もかか
り、はしかのような終生免疫
(1回免疫がつくと生涯かか
らない)は成立しません。つ
まり長期にわたって新型コロナ
ナに罹患しないという戦略は
正直難しい。ワクチンがパン



◇(まき・さとる 北海道小樽市出身。北海道大医学部卒、
熊本大大学院修了、医学博士。2008年、熊本市に駒木小兒
科クリニック開業。日本小児科学会専門医、県保険医協会理事。
趣味は昔のSFを読むこと。59歳。)

デミックを早めに終わらせる
可能性はあるものの、年月を
かけて新型コロナは5番目の
季節型コロナになっていくは
ずです。
子どもさん自身の新型コロナ
ナ感染症は軽いつい事実が
ありますし、現在家族内の新
型コロナ感染は、子から親や
祖父母への伝播はまれです。
そうすると子どもの教育、福
祉、健康の源である保育所、
幼稚園、学校生活は、子ども
にとって最も基本的かつ本当
に大切な活動ですから、子ど
もの生活をあまりに制限する

のは考えものでしょう。60歳
以上の方とはなるべく接触し
ないということを守って、子
どもたちが日常生活を普通に
できるように配慮しましよ
う。そうして子どもたちがま
たキラキラした目を取り戻し
てくれることが、小児科医の
願いです。
◇(駒木小児科クリニック院長)

◇ 私たちの体や心の病気に向
き合う医療従事者。健康や医
療に関する身近な話題を、県
内の医師らに月1回、語って
もらいます。